

国際社会で生きていくために私たちにできること

氏名：山口俊一

学校名：山形市立山寺中学校

担当教科：保健体育

実践教科：総合的な学習の時間・道徳

時間数：15 時間

対象学年：中学3年

人数：15名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：一人の地球市民としての自覚と責任

タナワン市長・ペルテクソン氏、認定NPO法人アイキヤン・羽根友里絵氏、特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン代表・中村八千代氏のこれまでの経験と決断などの生き方に触れ、自分が地球市民であることの意識を呼び起こし、今、自分がやってみたいことを考え、仲間の力を借りて、実現の第一歩を踏み出そうとする勇気を持つことができる。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	主人公の郷土愛や人間愛、生き方を汲み取ろうとしている。
	(イ) 思考・判断・表現	主人公の郷土愛や人間愛、生き方の背景を考え、自分の気づきを人に伝えるために表現の仕方を工夫することができる。
	(ウ) 人間力	自分事として考え、積極的に「私たち」ができる考え、行動しようとすることができる。

【3】 単元設定の 理由	単元設定の理由
	中学3年生は、自分一人の力で生きていたいといった自己中心的な考え方から、少しずつ自分の住む「地域に貢献したい」という気持ちの高まりを見せる時期である。それが、ちょうど義務教育の最終年度であり、将来の進路を自分の意志で決定する時期と重なる。そこで、地域というローカルと世界というグローバルな場所で活躍する大人の生き方に触れることで、自分の将来を「自己実現と社会への貢献」の両輪で考える視点を育み、将来の生き方の方向性を見いださせたいと考え、本単元を設定した。
	生徒観

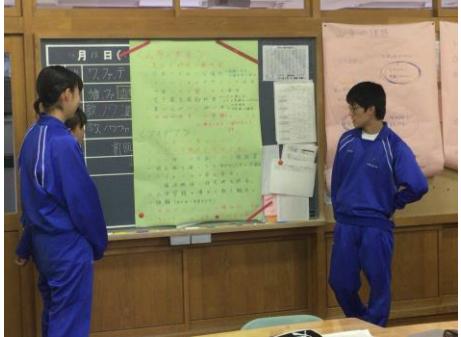
本学級の生徒は、最高学年として後輩の手本となるよう努力してきた。生徒会活動でも「地域貢献」をテーマに掲げ、地域の役に立ちたいという意志を持つ生徒が多い。しかし、時間的な制約もあってなかなかその思いを活動に結び付けることができていない。そこで、本単元の学習を通して、地域と世界のそれぞれで活躍する大人の姿に触れることで、将来、自分が育ってきた地域がこんなふうに発展してほしいとの未来を思い描けるような探究的な学びをさせたい。

教材観

今回、登場する人物は、それまでは無意味に思われた経験も全て活かし、「大きな困難」を乗り越え、自らの「人生の目的」に気づき、「自己の人格と能力」を磨き続けているという共通点を持っている。彼らの生き方から、「自己実現と社会貢献」のための原則を学び、自己の生きる目的を考えさせ、自分の価値観を広げていくことで、地域の課題に向き合うことができると考えている。

	<p>指導観</p> <p>生徒の中にある考えを引き出すために教師は「ファシリテーター役」となり、本音の交流を通して、社会や世界との関わりを「自分事」として捉え、仲間にも「自分事」として考えてもらえるような創造的な思考ができるような指導をしたい。また、本学級の生徒は、普段の授業から、仲間に教え、仲間から学ぶことに大きな価値を見いだしている。その強みを活かし、多様な価値観を認め合い、互いの意見を交流させ、具体的な行動としての問題提起につなげたい。</p>
--	---

【4】展開計画（全 15 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材	
1	<p>自分の将来の生き方を考えた時 思いつく課題を挙げる</p>	<p>○自分の進路の悩みを書き出す。 ○将来についての考えを書き出す。 ・将来、どこで働きたいと思っているか。 ・将来、友達に自分のふるさとをどう紹介するか。 ・将来、自分のふるさととどうか変わっていくか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・模造紙 ・パワーポイント <p>資料①</p>	
				
	<p>私たちの山寺のためにできることのポスター セッション</p>		<p>ポスターセッション前のグループミーティング</p>	
2 3 4 5 6 7 8	<p>地域で活躍する大人に学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大場俊幸氏（山形市役所） ・武田靖子氏（（株）ジョインセレモニー） ・渡辺博明氏（オリエンタルカーペット（株）） 	<p>○地域で活躍する大人の姿を知る。 ○困難に遭遇した時、いかに気持ちを高め、どんなふうにして乗り越えてきたかを知る。 ○困難を乗り越えた経験から得た教訓を学ぶ。 ○自分の将来にいかせそうな価値観をまとめる。 (いずれの授業もゲストティーチャーとして招聘)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント <p>資料②～④</p>	
9 本時 10 11 12	<p>フィリピンで活躍する大人に学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペルテクソン氏（タナワン市長） ・羽根友里絵氏（認定 NPO 法人アイキャン） ・中村八千代氏（特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン） ・パヤタスのお母さん 	<p>○最初に遭遇した大きな壁について知る。 ○その壁を乗り越えた土台になった考えを知る。 ○その後の活躍や将来の夢について触れる。 ○自分にいかせそうな価値観をまとめる。 (いずれの授業も海外研修の資料から構成)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント <p>資料⑤～⑧</p>	

	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> タナワン市長・ペルテクソン氏のリーダーとしての気概に触れた一場面 </div>	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 住民に寄り添いゴミ山問題に取り組むパヤタスのお母さんとアイキャンスタッフ <small>©アイキャン</small> </div>	
13 14	自分は将来、山寺にどんなふうに関わっていきたいか考える ・フィリピンの高校生の考え方 ・地域の大人の願い	○フィリピンの高校生の意見に触れる。 ○地域の大人の願いを思い返す。 ○フィリピンで活躍する大人の考え方を思い返す。 ○自分が将来どんな生き方をしたいか、考える。 ○自分が将来、ふるさとどう関わっていきたいか考える。	・実物資料 フィリピンの高校生のアンケート集
15	文化祭での発表に向けて ・原稿作成 ・発表練習	○自分の生き方についての考え方のスピーチ原稿をまとめ。	

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	・フィリピンの路上生活者と格差問題について知る。  	・路上生活の現状と支援する時の危険について写真を用いて提示する。 	・パワポ資料①

<p>展開 (25分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 羽根友里絵さんのこれまでの生き方について知る。 <div data-bbox="258 354 687 489"> <p>For the Next Generation. イノベーションと健全な事業活動を通じてサステナビリティ（持続可能性）の実現に貢献することそれがソニーのCSR（社会的責任）です</p> </div> <div data-bbox="258 455 687 702"> <p>企業のCRS(社会的責任)とNGO(非営利政府組織)をつなぐ架け橋になりたい</p> <p>もうそろそろ結婚しないと… 今しかできないことをとことんやりたい!</p> <p>29歳</p> </div> <div data-bbox="258 714 687 1062"> <p>羽根友里絵さんは、どんな中学生だったのでしょうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> めちゃくちゃ正義感の強いリーダー 英語が大好きな女の子 テレビの登場人物によく憧れをもつ子 恋話とワクワクが大好きな女の子 </div> <div data-bbox="258 1118 687 1253"> <p>頑張っているのに、気持ちが伝わらない、もし、自分ならどう自分を奮い立たせるか考える。</p> </div> <div data-bbox="258 1286 687 1623"> <p>人のために活動しているのに、上手くいかない時、羽根さんはどうやって気持ちを高めているのでしょうか。</p> <p>「やりがい」より「ふがいなさ」の方が多い。 やりきった感は得たことがない。 彼らにいつも気を遣わせている…</p> <p></p> </div> <div data-bbox="258 1736 687 1870"> <p>新しくスタートしたカフェが上手くいかなかった時、羽根さんがとった行動を考える。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 普通の高校生活を送り、恋愛やテレビへの興味・関心もあったごく一般的な高校生だったことを確認する。 <div data-bbox="719 354 1148 702"> <p>「共に」頑張る仲間を増やし、社会の中で「できること(I CAN)」を増やす事業</p> <p> ©アイキャン  ©アイキャン</p> <p>社会人経験の「強み」を重視 収入は、それまでの5分の1</p> </div> <div data-bbox="719 1123 1148 1253"> <p>人のために行動しているのに、上手くいかない時、自分なら、どう自分を奮い立たせるか投射する。</p> </div> <div data-bbox="719 1286 1148 1623"> <p>彼らの本当のニーズを読み取らないと結局、親切の押し付けになってしまふ。</p> <p>大切にしているのは「彼らとどれだけの時間を共有するか」マネジメントをしながら打ち解ける時間を大切にする。</p> <p></p> </div> <div data-bbox="719 1736 1148 2012"> <p>希望に満ちてスタートしたカフェも働くべきスタッフが遅刻してくる。しかし、反省する様子もない。自分なら、その状況をどうして解決するか、学級全体で意見を交流して考える。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> アナウンス映像 パワポ資料② パワポ資料③
---------------------	---	---	---

 <p>貧困問題ってやつても意味あるんですか？</p> <p>第一の目標「復学5名」</p> <p>無理だと言われた復学が「9名」 2ヶ月経って今も全員が学校に通っている</p>	<p>復学まで来たなら、次は、就職！ でも、失業率は日本の2倍</p>	
 <p>©アイキャン</p>	<p>膨大な時間をかけての闘争</p> <p>店もできた！ トレーニングもやった！ でも反省もせず遅刻を繰り返す あなたが羽根さんならどうするか？</p> <p>繰り返される遅刻と無断欠勤</p> <p>定職をつけることで貧困からの脱却を目指す事業 「やっとオープンまで達成したのに……」</p>	
<p>膨大な時間をかけての闘争</p> <p>「本当にこれが 子どもたち やりたいことなのか」 自分に問い合わせよう！</p> <p>繰り返される遅刻と無断欠勤</p> <p>定職をつけることで貧困からの脱却を目指す事業 「やっとオープンまで達成したのに……」</p>	<p>フィリピン人の 自主性・自発性を 奪っていたのは… サービス精神？</p> <p>目指すべきは、 サービスではなく 一人一人の成長</p> <p>彼らの、 ワクワクは何？ 夢は？</p> 	
 <p>©アイキャン</p> <p>羽根さんの新しい挑戦 『エンカーレッジ』(勇気づけ、励まし)</p>	<p>・羽根さんの生き方から学んだことを発表する。</p> <p>・相手を理解することに徹した羽根さんの生き方から学んだことを、3人と交流する。</p>	
<p>まとめ (15分)</p>	<p>・羽根さんの生き方から学んだことを発表する。</p>	

羽根さんの生き方から学んだことを
ノートにまとめなさい。



【授業実践の様子】



左・・・「人のために活動しているのに、上手くいかない時、羽根さんはどうやって気持ちを高めているのか」を考える生徒の様子。新しいことに挑戦した時に上手くいかなかった時の自分をどう奮い立たせるか、自分に置き換えて考える生徒たち。

右・・・ようやく辿り着いたカフェのオープン後、遅刻を繰り返すスタッフに、あなたが羽根さんならどう対応するかを考える生徒の様子。これまで、生徒会活動や部活動、運動会などの行事で後輩達と関わってきた自分に置き換えて考える生徒たち。

【6】本時の振り返り

本時では、事前研修の際の模擬授業で、メンバーからもらったアドバイスをもとに授業を構成した。ひとつは、道徳の授業であるからには「羽根さんはどう行動したのか」という問いと、「あなたが羽根さんの立場なら、どう行動するか」という2つの視点が必要だということ。もうひとつは、羽根さんの生き方から学んだことを「いかに自分の生活に取り込むか」という視点を持たせること。以上2つのアドバイスを取り入れて授業を行った。また、羽根さんが、中学校時代から特別に凄い存在だったわけではなく、一般の中学生と同じようにテレビの登場人物に憧れたり、恋の話しに夢中になったりした、ごく普通の中学生だったことを確実に伝え、自分たちと近い存在であるように感じられるよう配慮もした。その結果、より身近な存在として、考えることができた。授業中は、ノートに書いていない状態でも、自分の意見を交流できるよう鍛えられている集団であるため「2人以上と意見交換しなさい」などの指示で、授業を展開したことで、より多くの考えに触れることができたようである。また、参観者の方とも意見交換する場面があり、生徒も考え方や価値観の幅を広げられた

ようであった。

実際に、追試する際には、普段の授業で、意見交換ができるように鍛えられていることが条件になる。生徒の中からは、「自分の夢をしっかりと持ち、その夢を実現するために本気で生きている」など羽根さんの結果だけでなく、「信念」や「使命感」にフォーカスした意見が多く出てきた。その後、6時間目に「自分にできる SDGs」というテーマで10分ほど時間を持って考えをまとめ発表を行ったが、15人、誰一人として同じ考えの生徒はいなく、一人一人がそれぞれに考えたことを発表した。今回の授業は、様々な場面で追試可能である。実際のパワーポイント資料も、いつでも使えるようになっており、学級集団の実態に合わせて活用していただけることを期待したい。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

「日本の若い人でこんなにも頑張っている人がいることを初めて知った」

「自分も学校の生徒会長として、学校のお父さんという気持ちで残りの1ヶ月間生活していきたい」

「本当のリーダーとは人を引っ張るだけでなく、空いて自分事になってもらう事だと思った」

「すごい人たちばかりだったが、みんな昔は普通の中学生だったことに驚いた」

「自分も大人になったら、山寺のためにできることを進んでやりたい」

・2学期以降、これまでにも増して、学校全体のリーダーシップをとってきた集団だったが、さらに、「自分の意見」を持つようになり、また、仲間との意見交流から、自分たちで考えの幅を広げていけるようになった。特に、山形青年会議所・未来創造開発委員会による「SDGs」特別授業では、17の課題に対して、自分がやつていきたいことを発表した。その際、15人ともそれぞれ違った観点から「安全な水の確保」や「創ったものを有効に使い続けること」「人々が協力し合う方法」など、自分の考えを堂々と発表し、授業をしている青年会議所のメンバーも大変驚かれていた。その後、自分で、親に学んだことを伝え、できることをすぐに始める生徒もいた。

・今回の単元を通して、生徒が大きく変化したことは「明確な自分の考えを持つ」ようになったことである。加えて、その考えを仲間と交流することによって、「相乗効果」を発揮できるような案を創り出す生徒も出てきたことで、そうした考えが少しずつ行動に結びつくようになってきている。

【単元を通じ変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

・地域で活躍する大人からの話を聞いたことで、自分たちの住む観光地・山寺のまちづくりに対する関心が非常に高まった。「空き地の利用」「IT関係者の定住先としてのPR」「閉鎖された観光施設を温泉として再開する」など中学生とは思えないほど、積極的に、住んでいる地域の未来を明るく考えるようになった。また、同じように、世界から貧困や飢餓、紛争がなくなるために、自分たちにできることも少しずつ考え始めるようになった。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

(授業前)

- ・英語の授業は、入試のためにある。
- ・外国は、遠い存在。

(授業後)

- ・英語を学んで、一人でも多くの人の違いを知り、相手の文化をもと学びたい。
- ・外国の中学生も私たちと同じようなことを考えている部分もあるし、そうでない部分もあって面白い。
- ・将来は、日本だけでなく、日本以外の場所でも生活してみたい。

今回の単元の期間中に山形市で国際ドキュメンタリー映画祭が開催され、海外のお客さんをガイドさせていただいたことも相まって、異文化への関心がいっそう高まった。

【8】自己評価

1. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none">・道徳の授業と開発教育をいかにつなげていくか。 しかし、今後、カリキュラム・マネジメントが重要視されていくので、限られた時間でより効果的な学習をするためにも、「道徳」と「開発教育」の連携は、大変興味深いテーマになると感じた。・授業時間の確保をどうしていくか。 開発教育を実施する上では、2時間続きの時間を確保し、生徒を焦らせずに、じっくりと考える時間を確保することが望ましい。ただ、時間が限られてるので、普段の保健や技術と言った技能教科の中でも「開発教育」の視点で、単元を構成するなどの工夫が必要になっていくと感じた。
2. 改善点	<ul style="list-style-type: none">・今回は、1時間の枠の中での実施となつたが、2時間の枠があれば、「路上生活」をテーマに取り上げて、「課題」をできるだけたくさん見つけさせ、自分なら「同解決を図るか」を考えさせた上で、羽根さんをはじめ、NGOの方の取り組みを教えることで、授業により深まりが出てくると思う。
3. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none">・道徳のひとつの授業スタイルを確立できたこと。 偉大な成果を挙げている人も「少年時代は普通の人」であつて、困難に直面した時に、いかに「自分を奮い立たせ」、「私たち」という視点を持って行動を選択したかによって、未来を切り拓いてきたという「共通点」を見つけられたこと。
4. 備考（授業者による自由記述）	<ul style="list-style-type: none">・高橋様、三沢様に授業を見ていただき、一緒に事後研究をしていただいたことによって「開発教育」についての理解が深まりました。これからも、開発教育の授業をする際には、アドバイザーのような形で、ご助言をいただける関係を続けさせてほしいと思いました。